

平成 27 年度 社会福祉法人 鑑石園 事業報告書

高齢化の進展に伴い、医療・介護のニーズも高まることを受け、要介護状態となっても、尊厳を保持し、可能な限り住み慣れた地域で、自立した生活が続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の推進が進められています。

同時に、国が目指す経済再生と財政健全化計画の実現においては PB(プライマリーバランス)黒字化対象経費の 4 割強を占め、今後も増加が見込まれる社会保障費の削減が改革の柱となっています。

国民皆保険の持続と経済成長との両立を目指し、給付の抑制と重点化、効率化に向け、サービス提供体制の根本的な見直しが進められようとしています。

一方で、平成 26 年度においては、いわゆる社会福祉法人(特別養護老人ホーム)の内部留保に端を発し、事業形態別の収支差率が問題視され、また社会福祉法人に対する法人税保稅論が噴出し、社会福祉法人にとって厳しい戦いの一年となりました。

また、社会福祉法人制度においては、「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「いわゆる内部留保の明確化を含む財務規律の強化」「地域における公益的な取り組み(地域貢献)を実施する責務」を柱とする法律案が国会に提出されました。

以上のような制度改革の大きな流れもあり、平成 27 年度介護報酬改正においては、全体の報酬改正率が $\Delta 2.27\%$ と大幅なマイナス改定となり、大変厳しい結果となりました。

今後さらに消費税の引き上げも予定されており、周囲の様々な変化はあるものの当法人の目指す目標は、あくまでも、地域、家族、利用者の皆さんの立場に立って安心、安全なサービスを提供する事にあります。